レッスン：SPA60

テーマ：質問＆答え

SPA 60/KE9/NO.8/M/3/99

私の姉妹・兄弟たち、スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

以前のレッスンでは異なったタイプのエレメンタルに関する質問に答えました。そして説明したように、二つのタイプ、つまり二つのカテゴリーがあります。最初のカテゴリーはその主な現れが感情であるエレメンタルです。しかし、前に述べたように、感情が現れる前に常に思考・想念がありますが、この場合思考・想念は一瞬のスパークに過ぎず、それは数秒でしかなく、その後には感情の現れが続きます。ですから感情のなかに僅かに思考があるだけです。

さて、真剣な探究者が創造すべきエレメンタルとは、主な現れは思考で、感情が僅かにある、そのようなエレメンタルです。しかし、前に述べたように自己実現に達するまでは、そのようなエレメンタルが意識的に現されることはありません。意識的と言うときその意味は、自己実現に到達した人が、コントロールされていない何かを創造することが可能であるか否か；言い換えれば、意識的あるいは超意識的にコントロールされていない何かを創造することがあるかどうか、です。答えは勿論ノーです。そのようなパーソナリティーによって現されるものは何であれ超意識的に表現され、創造されるのです。

質問：身体の各エネルギーセンターの機能は何ですか？それはどのような助けになり、その目的とは何か、いかにしてそれを発達させることができるのでしょうか？

Ｋ：私たちが扱うべきセンターは現在のパーソナリティーを構成するセンターだけです。それらのセンターとは、太陽神経叢にあるもの、エーテルのハートにあるもの、そして頭のセンターにあるものです。現世のバイブレーション、つまり物質界のバイブレーションにおける現在のパーソナリティーを構成している三つの聖なるセンターです。

以前に述べたように、パーソナリティーは二つだけの体を持っています、つまり二つのセンターだけがあります；ハートにあるもの、そして頭のセンターにあるものです。なぜなら、現在のパーソナリティーとして私たちは思考・行動の仕方だけであり、肉体は物質界における無知のなかで自己を現すために現在のパーソナリティーに提供されたものです。

さて、バイタリティーのセンター、つまりエネルギーを吸収するセンターに関しては、肉体の全ての原子から、あるいはサイコノエティカル体の全ての原子からエネルギーを吸収します。それが私たちが以前あなた方に与えたエクササイズで行ったことです。そのようなタイプの呼吸を活性化する、いわゆる分子呼吸の活性化です。肉体であれ他の二つの体であれ、全ての原子、細胞、分子からエネルギーを吸収します。

さて、他のそれ以外のセンターを刺激しようとするメソッド、それは何らかの点で成功するかもしれませんが、それはエレブナが扱うものではありません。私たちは現在のパーソナリティーそれ自体にフォーカスします。私たちは現在のパーソナリティーが徐々にゆっくりと生それ自体から現すことを望んでいます。そしていいですか、生は私たちが想像できる以上のものを与えてくれるのです。生は現在のパーソナリティーにたくさんの可能性を与えてくれます。

テクニカルな手段でセンターを刺激する必要はありません。なぜなら、それらのセンターのなかには同時に多くのアンバランスをもたらすものもあるからです。というのも、それらのセンターの多くは地のエレメントとつながっているからです。そして多くのレッスンで説明したように、私たちは決してそうすべきではありません。なぜなら、何であれ地のエレメントのなかにあるものは低いバイブレーションのエレメンタルであり、それらは人間の無知によって創造されたものであり、それらのエレメンタルの大部分はデモン、悪魔です。

Page 2

ここで明確にしておきますが、地のエレメントそれ自体は純粋であり、それらをもたらすのは地のエレメントではなく、このエレメントのなかで人間が作り出したものが、それらの問題をもたらすのです。ですから、このエレメントを非難すべきではなく、そのエレメントは勿論サマエルの監督下にあり、サマエルは原因・結果の法則を司っています。それ故に、このエレメントは原因・結果の法則を被るようにさせるべきなのです。なぜならこの法則を司っているアークエンジェルのオーダーはまたこのエレメントをも司っているからです。それゆえに私たちはこのエレメントをまとい、この法則の結果を被らねばならないのです。

質問：自己実現に到達する前に、全ての人を愛する立場にいることができるのでしょうか？

Ｋ：勿論、無条件の愛を現し始めるのに、自己実現に到達している必要はありません。

質問：ただとても困難である、というだけですか。

Ｋ：確かにそれはとても難しいことです。しかし、レッスンのなかでたびたび述べているように、現在のパーソナリティーの素質的可能性の大きなサイクルのなかには素質可能性の複数のサイクルがあります。そしてそれらの各サイクルとはそれぞれ特定のイニシエーションなのです。自己実現に到達するまでにどれだけのイニシエーションがあるでしょうか？前に述べたように、素質的可能性の五つの大きなサイクルがありますが、それらの大きなサイクルのなかには他のサイクルがあります。サイクルとはイニシエーションであり、大きな五つのイニシエーションがあります。

それでは小さなイニシエーションについてはどうでしょうか？小さなイニシエーションとはロゴスそれ自身から与えられるもので、それは全ての人のなかにあるロゴスそれ自身です。そしてロゴスがそれらのイニシエーションを与えるのです；何年か前に述べたように、それらのイニシエーションは14のポイント、14芒星、つまりベツレヘムの星のステーションなのです。それゆえに14芒星があり、それゆえに14のステーションの道があるのです。もしあなたがエルサレムに行くなら、イエス・キリストが磔になる前に通らねばならなかったステーションがあります。しかし、彼が磔になる前のみならず、その後もそのステーションはあります。ですから、それら全てのイニシエーションがあり、実際にそれ以上があるのですが、それについては将来お話ししましょう。

さて、あなたが前進すればするほど、あなたは生それ自身から自分を現すようになります。実際あなたがしていることは、無条件のアガピ、愛へと近づいていくということです。勿論、最初はその背後にある動機からアガピを現します。動機と意図によってアガピを表現します。言い換えれば、エゴがあるということです。しかし無条件の愛、純粋な愛の完全な現れには、その背後にどんな動機ももはやありません。それが真の現れです。それはもはやどんな“感覚”も、さらには超感覚さえも使用しない現在のパーソナリティーだけがそれを現すことができるのです。なぜなら、無条件の愛、それは生それ自体、アガピであり、それは同調によってのみ現すことができるからです。そしてそれは霊的なヒーリングの実践によってそれが行われているのです。

それゆえに私たちは常に、霊的ヒーリングをしているのは現在のパーソナリティーではなく生の海が行っている、と述べているのです。誰も現在のパーソナリティーとしての自分がそれをしていると主張することはできません。それをしているのは生それ自体なのです。

質問：そのパーソナリティーの現れがキリスト意識の現れにできる限り近づくからでしょうか？

Ｋ：そうです。なぜなら、人が自己実現に到達すると、つまり生命の木における位置では最初の磔を意味しますが、現在のパーソナリティーはいわゆるキリスト意識に到達します（しかし、まだそのパーソナリティーは存在の諸世界と実存の諸世界を分ける境界線を越えませんが）。しかし、ひとたび最初の磔、つまり自己実現に到達すると、自動的にあなたの現れはある程度まで主の現れと一致します…しかし完全にそうなるのではありませんが。その人は法則によって与えられるものを現します…現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルである法則です。

Page3

ですから、その位置に到達した人が主の名前において同胞の人々を抱きしめる時、困っているそれらの人々を抱きしめているのは主なのです；繰り返しますが、それゆえに現在のパーソナリティーとして誰も自分がそれ、これを行っていると主張することはできないのです。それゆえに、助けを必要としている特定のパーソナリティーにたくさんのヒーラーがフォーカスする必要はない、と述べたのです。なぜなら、生の海はそれを知っているからです。もはやそれ以上の助けを提供することはできません。現在のパーソナリティーではなく、主がその問題を扱っているのです。完全な治癒が行われるが否かは原因・結果の法則次第です。

質問：病気の時、肉体的症状はサイコノエティカルな状態の結果であると言われます。そこでは法則がバランスを取り戻そうとしているのです。ですから、この期間、パーソナリティーの聖霊的サイドとしてのアークエンジェルは働いていないのでしょうか？それとも彼らは働いているにもかかわらず法則は結果が出るのを許さないのでしょうか？

Ｋ：あなたの質問の最後の部分はまさにそのとおりです、法則が許さないのです。アークエンジェルの働きはいつも同じなのですが、法則がその結果が生じるのを許さないのです。そして法則と言うとき、それはその特定の体験をしている現在のパーソナリティーを意味します。

それゆえに、多くのレッスンのなかで、現在のパーソナリティーは現れの周波数を変えることによって何であれ生じていることを変えることができる、と述べてきたのです。どうのようにして周波数を変えるのか？現れの周波数を高めるために、現在のパーソナリティーに関するワークをすることによって。その結果、過去に自分が送信したものをもはや受信しなくなるのです。とてもシンプルです；現在のパーソナリティーとしての私たちは同時に送信者であり受信者なのです。私たちは特定の周波数で送信し、同じ周波数で受信するのです。もし私たちが周波数を変えるなら、もはや過去に送信したものを受信することはありません。その時、原因・結果の法則の結果はどこにあるでしょうか？カルマの法則の結果はどこにあるでしょうか？（ありません）。

質問：それではヒーリングをしている時、ヒーラーはロゴスと働いているのですね。

Ｋ：ヒーラーがロゴスと働くことはありません。働いているのはロゴス、生の海です。現象的には働いているのはヒーラーですが。

質問：それではロゴスから来る助けは原因・結果の法則よりも慈悲深いように見えます。なぜなら原因・結果の法則はときには癒しが生じるのを拒否するからです。私は人はなぜ直接に原因・結果の法則に訴えないのか、と思うのです。どうしてロゴスを経由するのか、と思います。

Ｋ：私たちは原因・結果の法則でもなく、自分自身に訴えるべきです。前に述べたように、法則次第でもなく、それは現在のパーソナリティー次第なのです。実際、原因・結果の法則は私たちの現れに従って反応し、レッスンとしてそのパーソナリティーが求めているものに従って反応しているのです。なぜなら、何であれ私たちが経験しているものは、そうとは気づかずに私たちが求めたものだからです。ですから原因・結果の法則は召使いであり、人間に奉仕しているのです；原因・結果の法則はその人が無意識的に求めなかったものをその人に押しつけて生じさせることはしません。実際、無知を生じさせたのは原因・結果の法則ではありません。法則それ自体は人間に対する奉仕者です。ですから、現れの周波数を変えるためには自分自身に関するワークをしなければならないのです。

質問：しかし時には原因・結果の法則はある人々に対して一度にあまりにも多くのものを与えているように見えるのですが。例えば、ある人が癌になり、その後繰り返し身体の他の部分に癌が生じます。次から次へと…。

Ｋ：レッスン、レッスン、レッスンでありそれ以外の何ものでもありません。

質問：でも時には、ある人に対して過剰に生じているように見えます。

Ｋ：なぜなら、その人は他の人々よりもかなり強力なレッスンを受け取っているからです。経験を受け取っているのは、その特定の経験をしている人だけではありません。私たちは受け取り、与えるためにここにいるのです。現在のパーソナリティーとは何でしょうか？たいしたものではありません。私たちはそれを大きなものと考えますが、実際にはそうではありません。経験とは何でしょうか？生それ自体と比較したらそれも無に等しいものです。

質問：でも私は無に等しいは思いません。人々がたくさんの苦しみを経験している最中、彼らにとってそれは大きなことです。後になって忘れてしまえば別ですが、苦しみの最中には無に等しいとは言えません。

Ｋ：何が無で何が無でないか、それは解釈の問題です。つまり、ある人には苦しみであることが他の人には喜びとなる、という意味です。もしグループの中、町の中、あるいは国のなか、あるいは地球上で、一般の人の日常生活における出来事を観察するなら、そのことがわかるでしょう。

ですから意味なのです。意味とは何でしょうか？意味とは無知である人間に素質的可能性として与えられるものです…それによって人間が自分の実存を理解できるように；さもないと、私たちは自分たちの実存、存在していることを理解できず、物質界で機能できなかったでしょう。もし意味を作り出さなければ、自分が生きていることを理解できないでしょう。私たちは現れとして生きています。事故という出来事、二元性がその意味を生み出すのですが、事故の結果として現れを止めてしまった人（＊死んだ人）もあれば、植物人間になるという現象にある人もいます。

人間のなかで二元性がどのようにして現されるのでしょうか？それは思考、想念として現れます。思考とは何でしょうか？それは質問と答えが同時に継続的に生じること、それが思考です。私たちはいかにして意味を生み出すのでしょうか？観察および他との比較を通じてです。そのようにして私たちは意味を作り上げます。もしそのようなことがなければ、意味もなければ、思考もありません。ですから、人間と動植物など他の生物との違いはそこにあります。なぜなら、それは生それ自体の特徴だからです。それは創造界の特徴ではなく、生それ自体の特徴なので、そのようになっているのです。

質問：つまり人間と動植物など他の生物との違いは、私たちが人間が意味と思考のなかにいるということでしょうか？

Ｋ：意味をどのように見ていますか？

質問：意味ですか？私はその言葉に興味を感じています。というのも、もし意味が主体的であるなら、全ては非常に相対的なものとなります。なぜなら、その時すべては私たちがリアリティーをどのように解釈するか、によるからです。そうであるなら、癌などの大きな病気は私たちに道を示してくれる祝福として見ることができる、とあなたが前に述べたことを支持することになるからです。

Ｋ：**何であれ私たちに生じることは常に私たちにとって良いことなのです…ただ私たちがそれに気づいていないだけです。何が起ころうとも、そこから学ぶことができるのです。**

質問：それでは苦しみが多ければ多いほど、喜びもそれだけ多くなるということですか？

Ｋ：何ですって！そのような見方をすべきではありません。出来る限り痛みを避けるべきです。どのようにして？前に説明したように、自分自身についてのワークを行って気づきのレベルを高めるのです。私たちはそのプロセスをスピードアップすることができるのです。そのために、つまりサイコノエティカルな成長のプロセスをスピードアップするために、私たちはここにいるのです。

質問：私の質問はそれをどのようにして行うかです。それは想念、思考ですか？なぜなら、あなたが意味こそが人間と他の生物を分けるものである、と述べたからです。

Ｋ：生の現れとして私たちと他の生物たちを分けるのは、思考という能力です。他の生物という時、動物界および植物界を意味していますが。

質問：しかし、思考というものは非常に批判されてきました。つまり思考は私たちをラテン的、古代ローマ的な現実の定義へと連れ戻します。“我思う、故に我あり”という言葉がありますが、これは今世紀になってもっとも批判、非難されてきたものです。なぜなら、私たちは現在、思考を越えた地点へと進んできたからです。

Ｋ：どうやってですか？

質問：身体を受け入れることによってです。ユング心理学などを含む心理学は単なる思考ではないより進歩した認識へとそのドアーを開いています。思考だけというのは世界を認識する上で非常に男性的な認識方法であり、それゆえに多くの問題が生じ、リアリティーの半分しか認識できず、他の半分を見ていません。ですから、誰かが世界を認識する方法として思考というものを掲げると、私はそのたびに困惑するのです。

Page5

Ｋ：次のように話しましょう。そうです、何であれあなたがつながりたいと望むものにつながるためには思考を使います。しかし、**それについて少し説明しましょう。**

**思考、想念というものは人間が無知のなかにいる時にだけ現されるものです。**

**自己実現した現在のパーソナリティーは思考を現すことはしません。必要がないからです。**

生(Life)がその本質からほとんど全てを現す時、生は思考を使用しません。思考というものは意味を作り出すときにのみ必要であり、それ以上のレベルでは必要のないものです。つまり、物質界において、あるいは実存の諸世界においてのみ必要となるのです。

**生は考え、つまり思考を使いません；思考は火による洗礼が完了するまで使用されますが、それより上のレベルでは使いません。**

**つまり、そこでは、現在のパーソナリティーは自らの現れのために五つの超感覚ですら使う必要がない、ということを意味します。それでは現在のパーソナリティーは何を現すのでしょうか？同調(attunement)です。**

**あなたが同調するとき、思考、想念という形態を使うことはありません。人間が自己実現に向けて進む時、意味というものは消え去ります。**

質問：それでは私たちが思考を越えたレベルにいくとどのようなバイブレーションに入るのですか？

Ｋ：バイブレーション？私たちは生それ自体に向けてどんどん近づいていくのです。それが実際に生じていることです。創造界にある全てを活性化する生の海をたくさん現すようになります。

質問：色、音のなかに入るのですか…。

Ｋ：実際、言葉が行っているのは何らかのバイブレーションを作り出すことです、意味を作り出すバイブレーションです。それが音楽、音、色がしていることです。

創造界にあるもの全てにはバイブレーションがあります。存在と現れのバイブレーションです。あなたが気づかなくても、全ては存在の特定のバイブレーション、そして現れの特定のバイブレーションを“作り出して”います。言い換えれば、創造界のなかで全てが話しているということもできます。あなたはこの存在のハーモニーに耳を傾けることができるのですが、どのような耳で聞くか、それは別問題です。人がこのようなコミュニケーション手段を使えるステートに到達すると、言葉、方言あるいは何であろうとコミュニケーションする上での制限はなくなります。それは同調を現す前に人間が使うようになるステートです。

　惑星上の大部分の人間が自己実現に到達すると、人々は同調を通じてコミュニケートするようになり、私が先ほど述べたような方法を使用するようになり、それは言語を越えた方法です。

さて、現在、人間によってそれが使用されているか否か？ある程度まで、答えはイエスです。しかし、それはテクニカル的に使用されていますが、進化成長、サイコノエティカルな成長の結果として使用されているわけではありません。真の現れとして創造されているのではなく、コミュニケートするためのテクニカルな手段として使われており、彼らは音を使っています。それは各音を特定の意味として、あるいはある文字、ある色をある意味として用います。しかし、サイコノエティカルな成長の結果としてそのようなコミュニケーションができるようになると、色とか音がサイコノエティカルな成長の結果として誰においても存在するようになるでしょう。特に何かを学ばなくても、ただ自然にそれを現すようになります。

無知にある人間に対して色と音は違ったフィーリングを与えます。今は非常に敏感な表現があります。サイコノエティカル的にサイキックな存在として、あるいはサイキックなステートとして。

いずれにしても、それらは思考・行動の仕方の結果であり、それらは解釈であり、それらは気づきのフィルターを通過します。あなたにとって美しいと思う色でも他の人にとっては美しいと感じないかもしれません。例えば、あなたがある色を見ると、その色はあなたに特定の気分を生じさせます。しかし、他の人には別の気分を引き起こします。日常生活のなかで、人々が「私はこの色が好き」、「いや、その色は嫌いだ、別の色のほうが好きだ」、「この種の音楽が好きだ」、「いや、それは私の趣味ではない」などと言うのを耳にします。しかし、全人類が私が先ほど述べたレベルに到達すると、全ての色は全ての人々にとって同じとなります。そして全ての音が全ての人々にとって同じになります。コミュニケートするということ、それはあなたが同じ言語を“話す”ことになり、さもなければコミュニケートすることはできません。

Page6

ですから、何であれあなたに話しかけることは私にも話しかけることになります。同じ音楽があなたに話しかけ；同じ音楽が私にも話しかけることでしょう。私は同じ音楽を他の誰とも“楽しみ”ます。そのようになるのです。私たちは自然の音楽を楽しむようになり、それは私たちに話しかけるのです。なぜなら、常に私たちの周囲にはシンフォニーがあるのですが、今私たちはそれを聞いていません。それは非常に美しいシンフォニーです。もしあなたがその音楽にフォーカスしようとすると、あなたはそのシンフォニーのなかに浮かぶことでしょう。それが物質へのフォーカスを背後にして進む時に、実際にあなたに生じることです。

質問：それでは、展覧会に行ったり、音楽のコンサートに行くということは物質界のバイブレーションと見なされるのですか？

Ｋ：そうです、全ては物質界のものです。それらの音のために私たちが今使っている耳は、他の種のバイブレーションには使われません。聴覚あるいは他の感覚などにおいて、他の種類の認識を刺激によって得た人がいるでしょうか？答えはイエスです。それゆえに、他の人々が理解できないようなより高い音のコンビネーション、シンフォニー、音楽を楽しむ人がいるのです。絵にしても同じことが言えます。真の絵の傑作をどれほど多くの人が認識し、価値を認めることができるでしょうか？たくさんの人がギャラリーに行って絵を見ますが、何人の人がその絵の真価を理解できるでしょうか？

他人に言われないと真の作品の価値がわからない人もいます。真の作品とは何でしょうか？それは誰か有名な人が傑作であると見なしたものでしょうか？ですから、それは誰かがいかにして音楽を解釈したかによります。

私が“何であれ物質と関係するものから”と言うとき、その理由は何であれ現世で表現されるものは物質と関係するからです。もう少し説明しましょう。音楽の作曲家であれ、画家であれ、それは潜在意識のマインドへの同調がそこにはあります。彼らはそのステートに行くことはできませんが、潜在意識のマインドは実存の世界と絶対的に関係しています。この実存の世界にあるものがそこに記録されています。私たちには他の諸世界の（＊実存の諸世界以外の世界という意味）潜在意識のマインドありません。他の世界、高次の存在の世界の潜在意識のマインドはありません。存在というステートには生それ自体の現れがあり、それらはイデア、元型、法則、どんな結果もない原因の諸世界です。

ですから、何であれ人間が現したもの、ユニーク、傑作などと見なされるもの、それらは現在のパーソナリティーの結果であり、決して生それ自体からのものではありません。そうです、それは同調ですが、潜在意識のマインドとの同調です…それが個人的なものか汎宇宙的なものかは関係ありません。なぜなら最大のなかにあるものは最小のなかにもあるからです。それゆえに、もし音楽を勉強すると、それらの作曲家たちによって作曲された音楽のほとんど、作曲家たちは特定の時、悲しみの時、恐れ、怒りその他、かれらの存在のステートを現そうとしたのです。

質問：しかし、それらを創造したパーソナリティーたちについてはどうなのですか？

Ｋ：ここでも創造、創造といい、あなた方は創造という言葉を使います、何かを創造すると。それはこの世界、実存の諸世界のためのものです。無から何かを創造するのですか？無から何かを創造することはできません。何かを創造しますが、それを創造するために使用される全てはあなたがいるステートにあるものです。どこか他にあるものを掴んで、この世界に持ってくることはできません。何かを創造するためには、あなたが立っているところの材料を使わなくてはならないのです。あなたは美しいバイブレーションを創造するかもしれませんが、しかし潜在意識のマインドと言うとき、最高に純粋な現れですらそこにあるのです。それらは実存の諸世界における現れなのです。生それ自体の世界において何かを創造する必要はありません。あなたはただそこにいるだけです。そこではもはや同調を使うこともありません。あなたはすべてと同化します。そこでは何かを解釈するということはなく、同化するだけです。

質問：他のバイブレーションから材料を持ってくることはできますよね。

Page7

Ｋ：それが私が述べたことです。**実存の諸世界における最高の表現ですら、それは潜在意識的マインドのなかにあります。創造界においてどれほど多くの人間が自己実現に到達したでしょうか？無数の人々が到達しました。そしてそれらは潜在意識のマインドに記録されています。**

**そうです、たとえ自己実現に到達していなくても、あなたはそれらの記録に同調することができます。さもなければ、アンバランスなパーソナリティーから、表面に英知が来るのを聞くことはできなかったでしょう。低次のバイブレーションと見なされるパーソナリティーでさえ、時には彼らから英知が来るのを聞くことができます。**

質問：なぜですか？

Ｋ：なぜなら、彼らのアンバランスの結果として、彼らは潜在意識のマインドのドアーを開き、その英知が放射され、流れるのです。

質問：それでは潜在意識のマインドのなかで著作権法を侵しているのでしょうか？

Ｋ：著作権法などありません。

質問：…なぜならすべては潜在意識のマインドから来るので、それが自己実現のレベルであろうとなかろうと、私たちは常に潜在意識のマインドから引き出しているのですね。

Ｋ：いいですか、何であれ表面に浮上してくるものは気づきのフィルターを通過しなければならないのです。さて、もしある時そのフィルターが脇に置かれ、あなたが自分の気づきのレベルにマッチしない何かを現すとします。そのような場合もあります。そのようなステートに到達した人もいます。テクニカルな手段によってでもそのようなレベルに到達することが可能です。でもなんでそのようなことをするのでしょうか？それは現在のパーソナリティーにとって何かプラスになることがあるでしょうか？答えはノーです。なぜなら、そこで現わされたものは、その人の真の現れではないからです。

質問：私たちは意識のレベルについて話しているようです。全ての人間は自己実現のステートに到達するまで進歩成長すると言いますが、ある文化圏においては他の文化圏におけるよりも高い意識レベルに到達するということもあるのですか？

Ｋ：勿論です。

質問：わかりました。それではある限界ある文化圏で自己実現に到達して自らを現している人がいるとします。そしてその人は自己実現のレベルで大いなる英知を示します。しかし同時に、その人がいる文化圏の限界をも現すのでしょうか？

Ｋ：そうです。

質問：それでは、どのレベルにおいてもその種のアンバランスはあるのですね？

Ｋ：そうです。しかし、より高いレベルの文化圏にいる人が低いバイブレーションを現しているとします。その人は高い文化圏にいるからといってより高いバイブレーションを現すわけではありません。他のケースでは、自己実現した人がその自己実現のレベルに留まらないことがあります。その人は同調のステートに留まりません。その人は人間が助けを必要としているバイブレーションにおいては、自分のバイブレーションを下げるでしょう。

質問：そしてその人は制限を現すわけですね。

Ｋ：そうです。相手とコミュニケートするために原因・結果の法則の結果に反することをします。もしコミュニケートしなければ、どうやって助けることができるでしょうか？もし相手のレベルで自分を現さなければ、相手と交流できず拒否されるでしょう；彼らはあなたと同じ言葉を話すわけではありません。ですから自己実現した現在のパーソナリティーは10回の転生、さらに必要であれば２回の転生の文化圏においてさえも自分を現すのです。しかし意味の違いがあります。その現在のパーソナリティーにとって意味は異なった意味をもつことでしょう。現象的にはその人は意味や努力を除けば、他の人々と全く同じことを経験するかもしれません。しかし、意識的あるいは超意識的に、あるいはただ現れとして努力なしに、何であれ他の人々が経験していることを経験しようとするでしょう。なぜなら、もしその人が他の人々とは異なったセルフを現すなら、助けが与えられないからです。

ですから、自己実現した現在のパーソナリティーはその現れのステートに留まるわけではありません。なぜなら、その人には唯一のやるべき仕事があるからです。全ての同胞を抱きしめるということです。そして言う必要はありませんが、最初にそのステートに到達する人は、一番最後までそこに留まるのです。そして惑星上の全員が自己実現のステートに到達する時には、創造界で行う別の役目が出てくるでしょう。その時、人々はそれまでの惑星を背後に残して去るのではなく、マインドの低次のバイブレーションを使用して、人間によってそれらの重荷を背負ってもらうのを必要としている他の惑星、他の太陽系、他の銀河系を助けるのです。なぜなら、重荷はあなたが実存している時にのみ背負うことができるからです。言い換えれば、自分を現す手段を使うことのできる現在のパーソナリティーということです。それらの手段とはマインドの様々なバイブレーションです。そして今でも自己実現した他の惑星から来た人間たちが、地球の私たちを助けるために地球に来ているのです。いわゆる地球外生命体という言葉がありますが、それは何でしょうか？それらは自己実現した現在のパーソナリティーであって、彼ら自身であったり、創造したもの、つまりエレメンタルを送る場合もありますが、私たちを助けているのです。それが彼らの仕事なのです。

質問：科学的リサーチによると、地球外生命体によって人間が誘拐されたり、虐待されたりして心理的後遺症があるようです。私はそれらの一人に会ったことがあります。

Ｋ：それらの人々に実際に何が起きたのかを誰か調査できる人がいますか？誰かそれらのケースを調査し、それらの人々の体験が彼ら自身の創造によるものではないだろうか、と疑問を抱いた人はいなかったのでしょうか？そのようなケースでは多くの場合、彼らは自分たちの潜在意識から投射したエレメンタルを創造し、それを外側に出したのです。全ては私たちの内側にあります…あらゆる類のジャングル、あらゆる類のパラダイスなどが。そのようなスペースに入り、それらのイリュージョンを作り出すのはとても簡単なことです。

イリュージョンを過小評価しないでください、それらは本当にリアルに見えます。さて、自己実現に到達する前の人間が他の惑星を訪問するテクノロジーを使うことができるでしょうか？勿論です。しかし、その場合には自己実現した現在のパーソナリティーが使用する能力はありません。そしていいですか、この地球上で記録されているケースは全部、自己実現した現在のパーソナリティーによるものなのです。しかし、それらの現在のパーソナリティー達はそれを証明する具体的な証拠を残すことはしません。特に米国では数十年前に地球外生命体が使用した乗り物、あるいは生命体さえも捕らえたと主張するケースがありました。それらは何なのでしょうか？自己実現した現在のパーソナリティーを捕らえることなどできません。

質問：それはエレメンタルなのですか？

Ｋ：勿論です。人類に疑問、問いを抱かせるために物質化したのです；彼らが捕らえられたわけではありません。私たちにレッスンを提供するために、それらが提供されたのです。

EREVNA SPA60/M8/99